

平成25年度第1回景観行政コーディネーター研修概要

①塩見寛氏ご講演

- ・ 景観形成は時間がかかり、景観 10 年、風景 100 年、風土 1000 年と言われていて、建物の寿命を 40 年とすると、10 年で市街地の 1/4 が建て替わる。
- ・ 景観はなかなか市民に浸透しない。
 - 景観によって生命に危険が及ぶことは無い。
 - 防災・防犯・耐震には予算がつく。
 - 問題が発生すると関心が高まる・・・例えば高層マンションや自然環境破壊など。
 - 静岡県下田市景観計画では、最初のページで行政が取り壊してしまった下田を象徴する建物について書かれていて、行政の失敗を認めている。
下田市景観計画では、建築物・自然・文化・イベント等も含めた地域資源を“まち遺産”として維持・保全に取り組んでいる。
- ・ 景観を主題に掲げてまちづくりが始まることは（少）ない。
 - 神奈川県泰野市では、景観形成基本計画を検討。
 - 市民から生まれた「生活美観」という言葉をキーワードとし、日々の生活における身近な取組みから景観まちづくりの輪を広げていくことを基本としている。
- ・ まちの様々なことに関わっている景観は総合化されたもの、まちづくりの総合性の中に景観は存在する。
- ・ 景観は身だしなみ。
 - 人は出かける時、服を着てお洒落をする。家やビルも周囲への気遣いが必要。まちに対する身だしなみと考えている。
 - 「ぼくのおうちは、みんなの景色」「外はみんなのもの、内は自分のもの」等の標語もある。
- ・ 景観は、市民のレベル以上にも以下にもならない。
 - 市民のレベルが、そのまちの姿となる。
 - いかに景観に関心を持つ多くの市民を育てるかが重要になってくる。
 - 例えば、静岡県横須賀では毎年 11 月第 3 金・土・日曜日に「ちっちゃな文化展」が開催される。古い町屋、空き家などの玄関先、部屋の一室をお借りして美術品を展示、その作品や作家さんを通して、もう一度歴史ある町並みに目を向けてもらおうと開催されている。作家さんの作品だけではなく家主とお客さんの会話もあり、家の中を見ることが出来る。



- ・住民・行政・NPOの取り組み。

→他にも広島尾道市では空き家バンク制度を実施。市観光文化課で「空き家再生プロジェクト」の制度により、単なる空き家対策から建物の修景・景観形成、そしてコミュニティの再生を図る。

- ・景観まちづくりは、継続していくことが大事。

→粘り強く継続的な取り組みが必要になってくる。

②地域合意形成をテーマとしたワークショップ

3つのテーブルに沖縄の風景を愛する会・沖縄県建築士会の方を（1～2名）固定し、各市町村の行政担当者にローテーションでテーブルを回る。3つのテーマごとにグループ構成を変えて具体的な地域合意形成についてアイデアや課題を話し合う。

テーマ A「住民の関心を高め多くの参加を得るための方法について」テーマ B「景観計画の各段階における周知方法について」テーマ C「行政内の合意形成と連携体制について」議論した。



1 班

沖縄市	技師	伊禮 樹	糸満市	係長	徳元 弘明
石垣市	主事	天久 源太郎	読谷村	主査	島袋 仁
読谷村	係長	池原 一葉	久米島町	班長	大城 学
本部町	班長	平良 裕章	本部町	主事	天久 勝紀
浦添市	主任技師	古堅 功	那覇市	主幹	田原 格
名護市	主事	仲間 進一郎	浦添市	技師	新垣 直也

2 班

3 班

うるま市	主任主事	久高 唯樹
沖縄市	技査	島 英治郎
糸満市	主事	佐久間 麗子
読谷村	主事補	新城 築
那覇市	技師	中谷 巧太郎
名護市	係長	仲田 宏

ファシリテーター

住民参加(A)	周知方法(B)	庁内連携(C)
新垣 允啓	安里 直美	佐藤 努
友寄 孝	恩河 稔	伊良波 朝義

[テーマ A：住民参加]

- ・啓発活動が足りない。同じ人しか参加しない。今後を担う若い方が集まってくれない。
→もっと親しみがわくような動きを見せよう。
- ・景観に対する住民の意識が低い。そもそも理解が得られていない。
→問題意識を持たせることが重要。地域を引っ張る専門家の取り入れが必要。
- ・市民大学の活用、まちづくりプラン賞。
→浦添市では住民参加型「まちづくりプラン賞^(※)」を実施。ただこ市民大学にて、応募の仕方から見積もりの出し方まで勉強して学ぶことが出来る。そして、卒業生が「まちづくりプラン賞」に応募参加している。
^(※) まちづくりプラン賞：浦添の自然、文化を活かし、地域の美しい風景を守り、育て、創造するまちづくり活動、市民が自ら考え、行動する活動に対して助成を行っている。
- ・ポスティングしても効果が少ない。
→ストーリー性のあるフライヤーを作成する。例えば、全 4 回の物語形式に作って全て配布すると話が繋がるフライヤーや、興味の持てるイラストを利用するなど。
- ・子供のイベントでまちづくりの話をするなど説明して参加してもらえようにする。
または、地元の祭りにブースを設ける。花植えイベントで市民を抱き込み意識を持ってもらう。
- ・若年世代をどう取り込んでいくか。興味を持たせる仕掛けづくり。
→学生を取り込む。景観について絵本作成、幼年期から興味を持たせる。
- ・地域によっては進んでいる度合いが違う。
→那覇なら自治会が沢山あって話に参加させやすいが、自治会が少ない市町村になると呼び込むのにも苦勞する。その点を考慮していかなければならない。
- ・行政職だからといって一歩引いた姿勢ではなく、行政職また一市民としての対応を取る。営業力も必要になってくると考えている。
- ・改めて歴史・背景の確認が必要。
- ・せっかく参加してもらっても、少数の反対意見によって話がダメになることがある。
→理解していただける人だけを読んで啓蒙する方が良いのではないかな？
→逆にいうと少数の反対派の人から見ると、「なんで勝手に話を進めているの？」という話になってしまう。
→段階毎に、広く皆に説明することが大事になる。計画を前もって念入りに考え、その後、周知の段階に進むべき。
- ・何度か話し合いに参加するも、集まる毎にスタートラインに戻ってしまい知識が蓄積されない。
→集まった際に、次への課題を出し合ってみる。そして、次回までにフォローアップを図る。

[テーマ B：景観計画の周知方法]

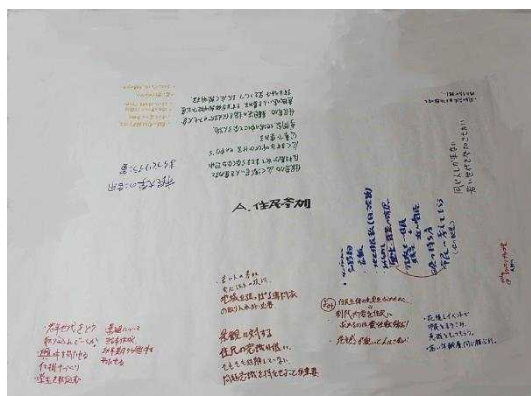
- ・何故その地区が重点地区に選ばれたのかが重要になってくる。
- ・数値だけを追っていくのではなくて、背景も考えていく。
- ・(石垣市) 申請と実態に違いが生じていることがある。完了届けで不備があったのでチェック体制を見直したい。
- ・(名護市) 景観計画を浸透させる前に、事前の協議体制をどう整えるか重要になる。
→建築面積を 300m² に設定した事で、アパートが引っかかってしまう。個々の建て替えで、住宅は引っかからないので、住民の興味が無くなってしまいうことが心配である。
- ・(浦添市) 沖縄らしさと浦添らしさでは違いが出てくるので、沖縄らしさ(屋上緑化など)と浦添らしさ(赤瓦など) 2つを合わせた地域らしさの形成を考えていきたい。
- ・(読谷村) 窯元の特性を活かして継承していくためにも、景観形成にのみならず環境保全周辺の田園地帯を含めた景観地区のメリットを考えていきたい。用途の指定が無い景観地区を用途指定することで、より良い環境づくりへ導くため絵などを使ってビジュアル的な説明が出来るガイドラインを作っていきたい。
- ・(うるま市) CG 作成による説明を行うことで、目指す方向性が分かりやすく、効果を得ている。

[テーマ C：庁内連携]

- ・県からの情報が遅い。何か計画があるのなら事前に説明が欲しい。急に、図面や計画書を渡される事がある。事後報告が多く、景観に対する配慮が足りない。住民からの苦情も多々あり。
→年度初めに各関係課へのヒアリングを実施して欲しい。
→景観計画の内容を各課が把握してないため庁内説明会を実施する必要がある。
- ・ずっと同じ部署に居るわけではないので、引継や情報交換が大切。常に情報を共有することが大事。
→庁舎内に景観に関する事務室をまとめる。共同で活動していく部署は場所を近くに設け、顔見知りになろう。
→PC システムを利用して庁内情報の共有化。
→情報共有化も兼ねて、同期との人間関係も必要になってくる。直接会うことで、相談できる環境を築いていこう。



[A・B・C手書きまとめ]



③講師及びNPO 理事長によるミニ対談のまとめ



[塩見氏]

- ・住民参加の周知に対して上から目線に感じる。
→目線をどこに置くかが大切になってくると感じた。
→つながりを大事にすることは、いい仕事につなげるのに必要となると考えられる。

[池田氏]

- ・現場で考える（地域のキーパーソンを考える）。地域の問題を自分達の問題として考える。
→現場で考えることで、住民の疑問にも担当部署がその場で答えられ、横流しせずに済む。現場で各部署と連携を図ることが出来る。
- ・一方で地域全体（現場以外）をどう考えていくか。
→住民に考えろというのは無理がある。プロや専門家も交えながら相互理解を得る。どう広めていくか、もうひと工夫が必要になる。今回は、その話までは触れていなかった

たので今後工夫して欲しい。

- 今回のワークショップで B チームの景観計画の周知方法は、深い問題だと考えている。
→そもそも重点地区はどう決めたのか。重点地区は一般地区とは違い、特殊なことは何
を取り組んだのか。景観条例は動かしたが、運用の課題が沢山ある。重点地区から景
観地区へどう移行するか。事前協議をどう工夫するかが重要になってくる。次回、運
用上の課題を掘り下げて欲しい。